メディア登場のご紹介

「今すぐできる! 今すぐ変わる! 「ほめ育」 2016年4月4日発行日刊ケイザイ に掲載されました!



原社長は船井総合研究 に逃げられてはたまった

ウハウを確立、2011 所コンサルタントからラ (平成23) 年に同社を設

めて育てる「ほめ育」ノ と結論づけるのは早いと のときに初めて、現場で メン屋に転職、人をほ まう若者が全面的に悪い 洗いに転職しました。そ 辞めていき、売上も伸び がいます。こうした状況 いう言葉はすっかりなじ み深いものになったが、 いう。「ブラック企業」 りの理由がある。そのま のスタッフなのだ」とい しまう背景には、それな ルタントでもなく、現場 きに、そのような状況に なくなり、経営そのもの フの離職に歯止めがきか まにしておけば、スタッ やはり若者が早く辞めて のは、経営者でもコンサ だが、すぐに辞めてし 起きている現実を見まし と感じ、ラーメン屋の皿 うことです。ところが、 た。そこで気付いたこと う悪循環が生まれてしま ネジメント層です。人が 「売上をあげている

に悪影響を及ぼしてしま が意外と多いです。かつ そのことがわかっていな しない」と痛感し、試行 てて戦力にするかという にとらわれることなく、 そうなると、どうしても る」ということに気づい い経営者やマネージャー ての自分もそうでした。 錯誤を繰り返した結果、 めれば売り上げがあが 「(現場スタッフを)ほ 「今までのやり方は通用 ことを考え、「こいつは 使えない」等と、ダメ出 いるスタッフをいかに育 しをしている場合ではあ

世界の企業からのオファ の人材育成ノウハウで、 も多く、これまでのべ 業績を向上させる独特 ら 何をすべきか。 止めるために、経営者は き続けたい」と思っても い、人材の流出を食い

今すぐ変わる! 今すぐできる!

-まずは、本書を書 も伸びません。 できなければ怒られる。 課せられて、目標を達成な気がします。 その繰り返しでは、売上

『ほめ育』マネジメン してみれば、莫大な採用 うなものがあれば教えて ください。 仕事をしていました。よ フは「こんなに頑張って ものは」と、「 辞めてい 研でコンサルティングの 原私は元々、船井総 弊していきます。

者の3割が「3年以内に 0回以上の講演を行う。 5万人が受講、年間20 現在、大卒の新卒就業 が次々にやめる企業が今 ついて話を聞いた。 すぐに実践すべきことに した原社長に、スタッフ 今回、最新著書を上梓

くにあたっての体験のよ

現場はどんどん疲

ト」をPHP研究所から コストをかけた挙げ句、

そのコストを回収する前

ものではな

ほど、最新著書「今すぐ辞める」という状況が長 できる!今すぐ変わる! らく続いている。企業に

イラルアップ社長はこの

原邦雄・株式会社スパ PHP研究所から上梓 ネジメント ほめ育

なければ、現場のスタッ 止めず、「 今どきの若い 頑張りが結果に結びつか その現実を正面から受け 原 そうです。自分の うなものです。なのに、

ます。売上ノルマばかり どうか」は決定的に重要 した雰囲気が流れていき わる覚悟を持っているか いる」とイエローカード の経営者は、「あなたの を突きつけられているよ マネジメントは間違って 原離職率が高い企業 めてもらうこと」が働く 今の若い人たちは、「ほ 原そうです。

「企業を支えているのは現場のスタッフ」 れてくる」というのは真 とではありませんし、「人 らうこと」を重要視して している「ほめ育」マネ 理です。実際、私が提唱 はほめられるために生ま だ、これは今に限ったこ す。それほど「ほめても いるというわけです。 限らず、インド、フィリ ジメントは、日本国内に 目的のなかに入っていま ピン、アメリカなど様々

います。すると、次々と決めつけてしまう経営者 姿勢とはどのようなもの ト層に求められる資質や でしょうか。 揮しています。 な国や地域でも効果を発 -では、マネジメン

ン屋で店長を任されたと 人を採用できた買い手市 辞めても簡単に代わりの 場の時代はもう終わりまるかどうかです。 で、まず変わるべきは現 7 ると心の底から思えてい すべての人には長所があ 長所を見つけられるよう な人間になることです。 原 まず、スタッフ

す苦しくなっていくとい場スタッフではなく、

ず、管理者自身がますま

います。私自身、ラーメ

直面しました。そこでした。多くの企業は、今

たのです。

お話を聞くと、企

ことが重要になってくる

現場と経営者の考え方は

乖離していきます。経営

者のおもいは現場にはま 業が苦境に立たされたと ったく届かず、ギスギス

イエローカードをつきつけられて てもわからない経営者もいる」 り現場を知る必要がある いるのに」と思ってしまく部下のほうが悪い」と

